



第12回 JSWN総会

Japanese Society of Women Nephrologist

臨床研究における女性医師の活躍

—国際多施設共同臨床試験・調整事務局の経験から—

京都大学医学部附属病院臨床研究総合センター早期臨床試験部 特定助教 **猪原 登志子**

臨床試験分野におきましては看護師、薬剤師、検査技師やその他の出身者など多職種から成るClinical Research Coordinator、Study Manager、Data Manager、Monitorなどが活躍されています。とりわけ、多施設共同試験実施の際に試験をまとめる調整事務局におきましては、主任研究者Principal Investigatorや調整医師Coordinating InvestigatorをサポートするStudy Managerの働きが重要視されており、これら臨床試験分野では、柔軟なコミュニケーション能力や粘り強く精細な作業が必要とされる一方、時には素早い判断が求められますが、多くの女性が職種を超えて活躍されている場でもあります。女性医師におきましても、Study Physicianとしてその医学知識も利用し、臨床試験・臨床研究支援組織のなかで十分にその機能を発揮できることにつきまして御紹介し、女性医師の新たな活躍の場について皆様と議論を重ねたいと思います。

慢性腎臓病 —鉄が多すぎて使えない—

兵庫医科大学内科学 腎・透析科 **蓮池 由起子**

慢性腎臓病では微細な炎症や炎症性サイトカインのために、体内の鉄を造血にうまく利用できない状態が存在する。このような状態の患者に鉄が投与されると、鉄は排泄機構がほとんどないため貯蔵鉄が増加し、高フェリチン血症を伴う貧血の病態を呈する。鉄製剤の不適切な投与は鉄過剰を容易に招くことや、鉄の存在が酸化ストレス亢進と関連することを、貧血治療にあたって十分理解しておく必要がある。

当院における在宅血液透析の現状と問題点

医療法人社団 坂井瑠実クリニック **岡本 久美**

当院では2014年1月末現在50人の在宅血液透析(以下HHD)患者を管理している。治療に対して患者が全責任を持ち、患者本人が介助者に頼らず準備や穿刺を行うことを原則としている。HHDでは夜間など自分の都合のよい時間帯に治療を行い、頻回の治療を行って十分な透析量を確保することができるのが最大の利点である。多くの方が治療と仕事や家庭での役割の両立を果たしており、QOLの向上に役立っている。安全な透析を行うための支援体制、抜針等の対策、シャントの管理、一部の症例でリンを補充する必要性があるなど解決すべき問題点も残されている。

透析患者における糖尿病治療

赤穂市民病院 **高原 典子**

糖尿病腎症は新規透析導入の原因として最も頻度が高く、また合併症が多く予後不良である。糖尿病透析患者の予後改善には適切な血糖コントロールが重要であると考えられるが、一方、糖尿病透析患者では、血糖の日内変動が大きい、透析日、非透析日で血糖変動の差がある、低血糖(無自覚)を認めやすい、といった特徴がみられ、使用可能な糖尿病薬も制限されるため治療に難渋することが多い。当院では、持続血糖モニタリング(CGM)を用いて、糖尿病患者のHD、PD治療における血糖変動、インクレチン関連薬を含めた新しい治療法の効果などについて検討しており、その成績についてご紹介したい。